



功績や技術

小田井用水路 全長約30km

木積川渡井

龍之渡井

小庭谷川渡井

中谷川水門

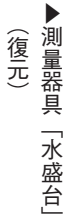
小田頭首工

大畑才蔵没後300年を迎えて
 今年は大畑才蔵没後300年にあたり、大畑才蔵が開削したかんがい用水路は時の流れの中で修復、改善され姿を変えつつも、今も私たちはその知恵と献身の恩恵を受けています。

また、大畑才蔵の農家への献身的な生き様や、優れた測量・土木技術を駆使した用水路開削へのひたむきな努力なども再度注目されています。これを機に、小田井用水路の持続的な活用や市民への普及・啓発の推進などを行い、小田井用水路を核とした新たな地域づくりへとつなげていきます。

卓越した技術
 大畑才蔵は、川の上に水路を通す「水路橋」と、川の下に水路をくぐらせる「伏越」という技術を活用し、また、険しい地形でも等高線に沿って水が流れるようにするため、測量器具「水盛台」を考案しました。

これらの技術は「紀州流」と呼ばれ、日本の治水と新田開発の主流となっています。



測量器具「水盛台」(復元)



小田井用水路のはじまり「小田頭首工」

▲大畑才蔵直筆のサイン

大畑才蔵顕彰事業

市では、大畑才蔵の人物像や功績などを広く知ってもらうため、下記の催しを行います。ぜひご参加ください。



◀小田井用水が地下を流れるせせらぎ公園

大畑才蔵翁没後300年記念 顕彰フォーラム

- 有識者による講演のほか、多くのプログラムを予定しています。
- 日時 12月12日(土) 午後1時30分～
 - 場所 産業文化会館
 - 定員 先着300人
 - 申込期限 12月6日(日)

●申込方法

住所、氏名、年齢、電話番号を記入の上、ファクス、またはテレビ和歌山ホームページ(右の二次元コード)から申し込んでください。

●申し込み・問い合わせ

テレビ和歌山 ☎073-455-5721 ファクス073-452-7380

治水ウォーキングツアー

橋本市に安定した「水の恵み」を遺した大畑才蔵ゆかりの地を、ウォーキング形式で迎えます。

- 日程 令和3年2月20日(土)
- 定員 先着50人



▲二次元コード

江戸時代の土木技術者 大畑才蔵

江戸時代、紀の川を水源とする小田井用水路を整備し、開削したのが橋本市出身の大畑才蔵です。小田井用水路は、優れた測量技術や土木技術が使われており、世界かんがい施設遺産にも登録されています。

今年は大畑才蔵没後300年にあたり、偉業や生涯について振り返るとともに、顕彰事業などを紹介します。

「シティセールス推進課」

農家に生まれ役人の道へ

大畑才蔵は、1642年、伊都郡学文路村(現橋本市学文路)の農家の次男として生まれました。当時の学文路は高野山への宿場としてにぎわっており、文化的に恵まれた環境で育ちました。

大畑才蔵は幼いころから農業に優れた才能を発揮し、紀州藩に注目されるようになりました。藩からの水利調査・水路開削の仕事や農村の管理運営で多くの経験と実績を積んだ大畑才蔵は、1696年、紀州藩に仕えることとなります。



▶大畑才蔵生誕の碑

干ばつに苦しめられた紀北一帯

当時の紀北一帯は、高低差の激しい地形になっており、水を貯めたり届けたりすることが難しい土地でした。この状態は、月の夜でも土地が乾いてしまうという意味で「月夜にやける」と呼ばれ、深刻な干ばつに農家は苦しめられていたのです。

世界に認められた小田井用水路

大畑才蔵は、紀北一帯を豊かな実りの地に変え農家を助けるため、1707年、橋本市から岩出市まで続く「小田井用水路」の開削にとりかかります。完成までを見届けることなく1720年に亡くなりましたが、大畑才蔵の考案した技術にちなって水路は数年後に完成し、現在も使われています。

小田井用水路は、農業の発展に貢献し、卓越した技術により建設されたものとして世界で認められ、2017年に世界かんがい施設遺産に登録されました。